

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 毎年3月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル 0120-782-031
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
本店および全国各支店で行っております。



ホームページのご案内

当社のホームページで 決算説明動画をご覧ください。

株主や投資家の皆様に当社のことをよりご理解いただくために、決算説明動画を配信しています。動画では、業績ハイライト、今後の取り組みや戦略、業績予想のポイントを中心に説明していますので、ぜひご覧ください。

今後も株主・投資家の皆様にタイムリーで分かりやすい情報発信を目指し、IR活動の向上に取り組んでまいります。

決算説明の動画はこちらから
ご覧ください



<https://www.seikoh-giken.co.jp/irinfo/index.html>



株式会社 精工技研
〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1
<https://www.seikoh-giken.co.jp>



特集

精工技研の
基盤技術と貢献領域

株主通信

2023年3月期(第51期)第2四半期事業報告
2022年4月1日～2022年9月30日

経営環境が大きく変化中、新中期経営計画『マスタープラン2022』の遂行により増収増益となりました。



代表取締役社長 上野 昌利

2023年3月期 第2四半期の業績について

当第2四半期の情報通信・エレクトロニクス関連市場においては、今後も継続的に見込まれるデジタルデータの増大に向けて、光通信インフラの増強やデータセンターの新設、大容量高速通信・低消費電力の光デバイスの開発が進みました。自動車関連市場においては、新たにリリースされた軽自動車EVが市場の注目を集めました。また電動化や自動運転技術、安全基準の強化等、自動車を取り巻く環境や必要となる技術が大きく変化していることを背景に、自動車産業の枠を超えた企業連携や、異業種からの新規参入が進むこととなりました。

こうした中で当社グループは、当年度から取り組み始めた5ヶ年の中期経営計画『マスタープラン2022』に基づき、「顧客接点の活性化」、「新製品・新技術開発の加速」、「ものづくり力の強化」、「経営基盤の強化」の各施策の遂行に努めました。

「顧客接点の活性化」に向けては、各種の成形品や金型、精密金属加工部品等を主力製品とする精機事業、光通信用部品とその関連機器、レンズ、光伝送装置や光電界センサー等を主力製品とする光製品事業の両セグメントにおいて、展示会への出展やホームページの活用等を通じて新しい顧客と出会う機会を数多く作り、商談数を増やすことに注力しました。

「新製品・新技術開発の加速」に向けては、より幅広い領域で社会の進歩発展に貢献できる企業グループとなるべく、引き続き技術力を研鑽するとともに、顧客や市場のニーズに

対して最適なタイミングで市場にリリースできるよう、新製品や新技術の進捗を社内でも共有し、開発状況の見える化を図りました。

「ものづくり力の強化」に向けては、半導体関連部品の供給不足や中国の都市封鎖等により不安定な環境にある中、継続的に安定した調達や物流を行えるよう、取引先との関係強化に努めました。

「経営基盤の強化」に向けては、当社グループ全体のサステナビリティ活動を統括する「サステナビリティ推進室」を中心に、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた温室効果ガスの排出削減活動や、ペーパーレス化やクラウドの活用等、有事の際にも事業活動を継続できる体制を構築するための活動に取り組みしました。

こうした施策と並行して、当第2四半期連結累計期間においては、引き続き当社グループの各拠点において、出勤時の検温、マスクの着用や手洗いの徹底、昼食時間の二部制による食堂の過密の回避といった新型コロナウイルスの感染予防対策を講じました。

こうした結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、8,581百万円、営業利益は708百万円となりました。経常利益は、869百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は649百万円となりました。

セグメント別の業績について

● 精機事業

自動車メーカー各社は、2021年度から続いている半導体の供給不足の影響が未だ収束せず、当第2四半期連結累計期間においても、計画に対して生産実績が下振れする状況が続きました。また中国でも、中国国内の消費低迷や買い替え期間の長期化等から中国製スマートフォンの販売不振が続いています。これにより精機関連では、自動車の各種センサー用のインサート成形品や電子機器向けの金属プレス成形品の売上高が減少することとなりました。一方、自動車向け成形品の第3四半期以降の量産準備に向けた金型や金属加工部品は売上が伸びました。

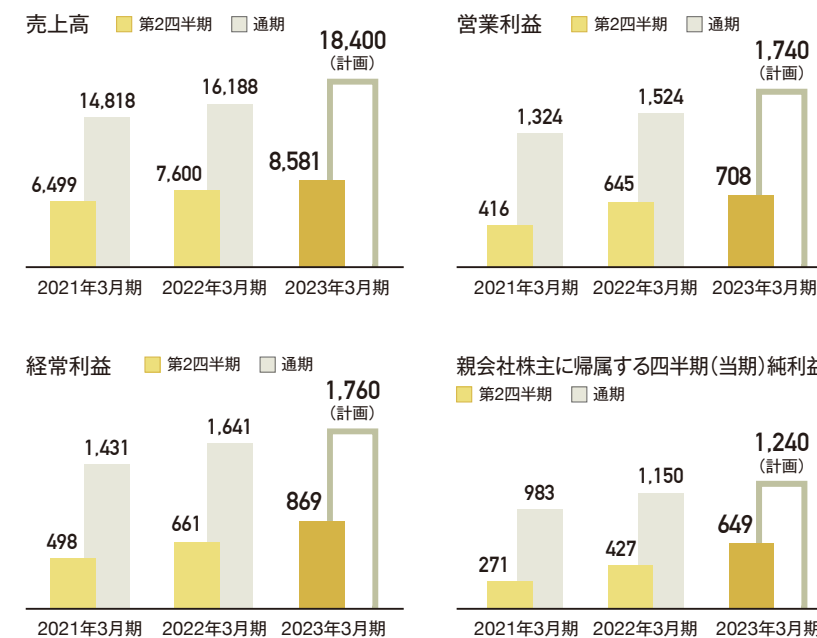
これらの結果、当第2四半期連結累計期間の精機関連の売上高は4,131百万円となりました。売上高の増加に伴い、営業利益は201百万円となりました。

● 光製品事業

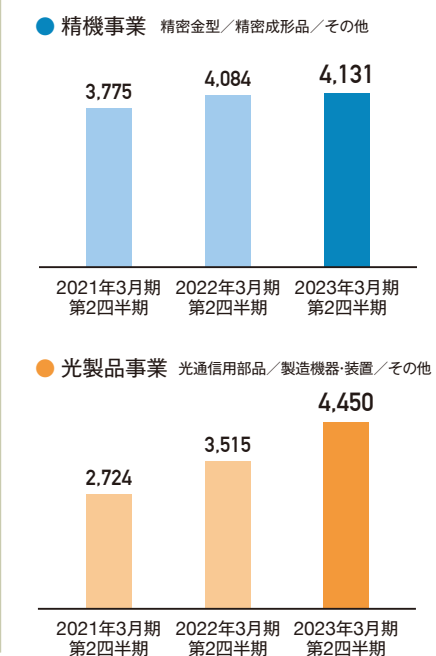
新型コロナウイルスの感染拡大により、足元ではテレワークやWEB会議システムの普及が進んでいます。また5Gの本格稼働を見据え、北米を中心に光通信インフラの増強が進んでおり、光通信用部品の需要が増加傾向にあります。こうしたことを背景に、当第2四半期連結累計期間においては、光通信用部品をはじめ、光コネクタ研磨機や測定装置等の製造機器の売上高が大きく伸びました。光関連製品は海外顧客向けの比率が高いため、為替も売上高を押し上げることとなりました。一方、展示会への出展や国内外顧客への出張を増やしていることや、樹脂等の材料費、電気料金、運送費等が上昇していることを受けて、営業費用は増加傾向にあります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の光製品関連の売上高は4,450百万円、営業利益は506百万円となりました。

業績・財務グラフ (単位:百万円)



セグメント別売上高推移 (単位:百万円)



優位性のある基盤技術を成長市場に展開し、 社会の進歩発展と維持継続に貢献しています

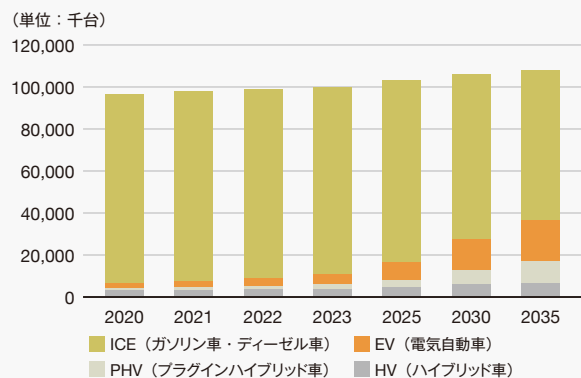
創業以来培ってきた「精密加工」「精密成形」「光学」の3つの技術。業界最高水準の基盤技術を活用し、今後も中長期的に成長が見込まれる「情報通信」「自動車」「医療・バイオ」の3つの市場に向けて、独創性の高い商品やサービスを提供しています。当社グループはこれからも技術の研鑽を続けながら、市場が求めるニーズに合致する製品を開発し、より豊かで快適、かつ安全安心な社会の構築に貢献してまいります。

自動車関連

電気自動車へのシフトが追い風になっています

近年、環境維持の観点から電気自動車へのシフトが急速に進む一方、より安全で快適な移動手段を目指し、自動運転の技術開発に拍車がかかっています。こうした変化を受けて1台の自動車に搭載されるセンサーの数が増加しています。当社グループは、精密金型技術とインサート成形技術を活用し、各種の圧力センサーやブレーキセンサー、日射センサー等に使用される基幹部品を製造し、大手部品メーカーに供給しています。電気自動車用のカーエアコン関連部品も受注が増加しています。

世界自動車市場予測2021



出典：総合技研「2021年版 電気自動車関連市場の最新動向と将来予測」



車載用高圧センサー部品

精密加工

精密成形

光学技術

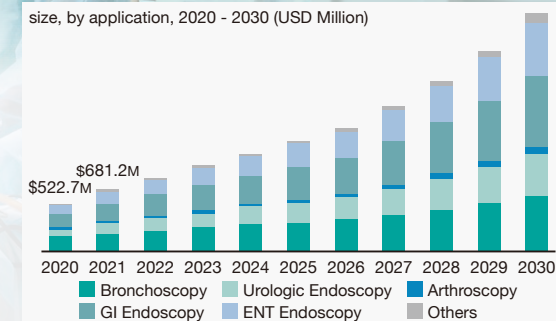
世界最小クラスの小型レンズを開発

医療機器には多くの Disposable (使い捨て) 部品が使用されています。使い回しによる感染を防止することや、機器の洗浄、消毒、滅菌、保管等の業務を効率化すること等がその理由です。当社グループは、高精度な金型に液状の樹脂を流し込んで熱硬化させる特殊な成形 (LIM成形) 技術を活用し、厚さ0.1mmの超小型レンズを開発。小型化が進む Disposable 内視鏡に搭載が可能で、その他にもマイクロ流路デバイスや細胞培養容器等、微細な形状加工を施した樹脂成形品を市場に提供しています。



Disposable 内視鏡用のレンズ

U.S. Disposable Endoscopes Market



出典：Grand View Research

情報通信関連

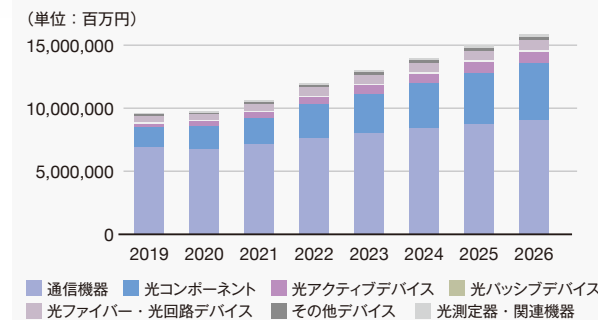
快適なインターネット環境を支えています

デジタルデータの流通量が急増する中、海底ケーブルや光通信網、データセンターの増強が世界で進められています。当社グループは、光通信が普及し始める以前の1980年代から情報通信関連市場に進出。様々な種類の光コネクタや、光コネクタを製造する際に不可欠な光コネクタ研磨機、測定装置等を提供してまいりました。データセンター用に開発した高機能新型コネクタ「Intelli-Cross® PRO」は、薄型でありながら高い操作性を実現。世界のデータセンター関連企業から注目を集めています。



Intelli-Cross® PRO

光通信関連製品市場規模推移・予測 全体市場動向



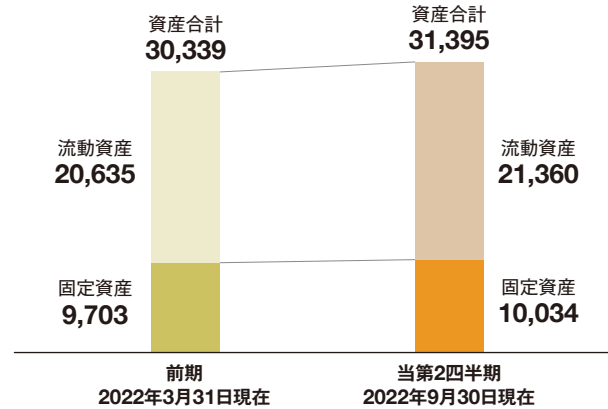
出典：富士キメラ総研「2022 光通信関連市場総調査」

連結財務諸表(要約)

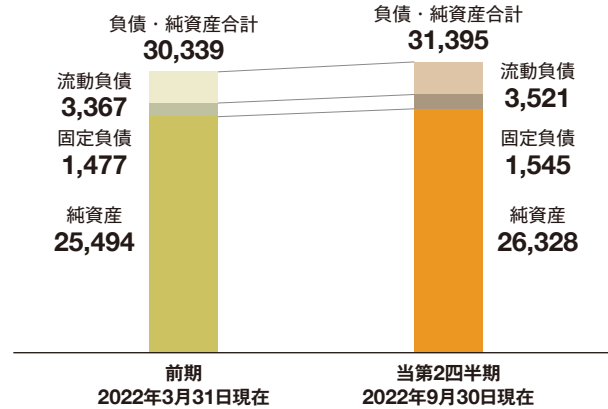
単位：百万円、単位未満切り捨て

四半期連結貸借対照表

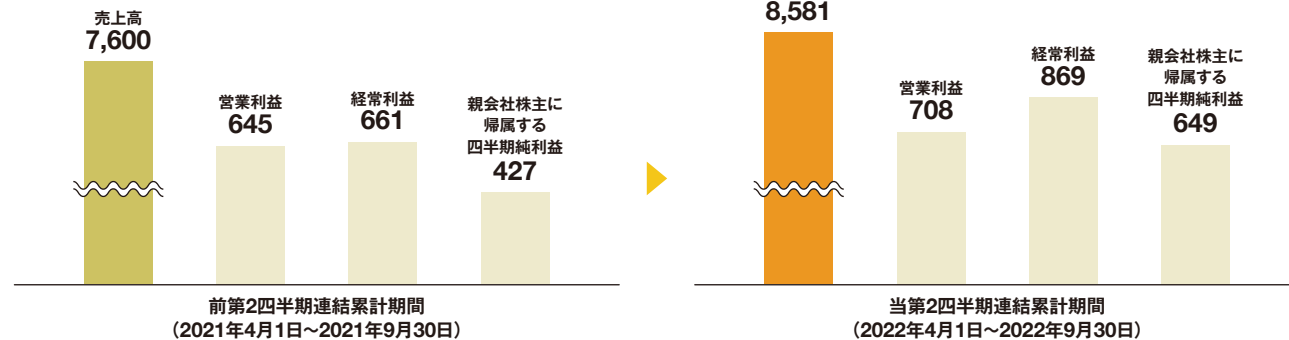
資産の部



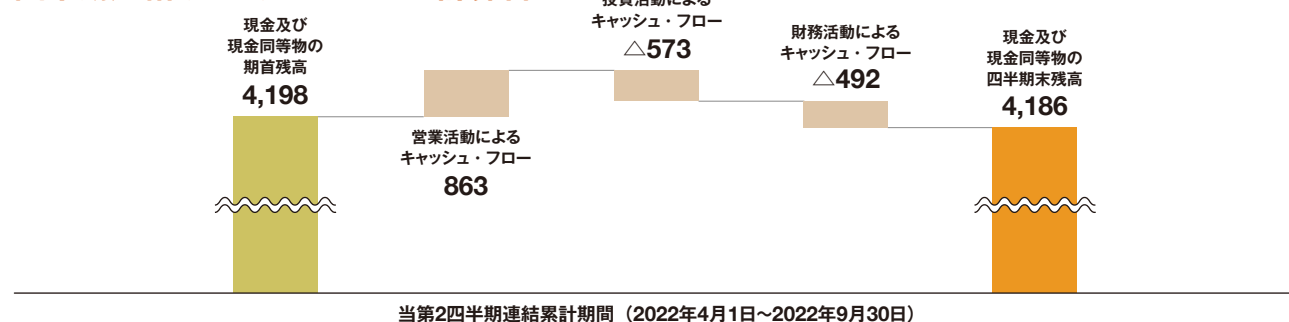
負債・純資産の部



四半期連結損益計算書



四半期連結キャッシュ・フロー計算書



会社情報 / 株式情報

(2022年9月30日現在)

会社概要

会社名 株式会社 精工技研
 本社所在地 千葉県松戸市松飛台296番地の1
 創業 1972年6月
 資本金 6,791,682,700円
 事業内容 **精機事業**
 自動車用部品、電子部品等の精密成形品や各種精密金型、精密金属部品等の製造および販売
光製品事業
 光通信用設備に用いる光部品や光部品製造機器、光部品形状測定装置、無給電光伝送装置、光電界センサ、高耐熱レンズ等の製造および販売

従業員数 901人
 グループ会社 **子会社**
 SEIKOH GIKEN USA, INC.
 杭州精工技研有限公司
 SEIKOH GIKEN EUROPE GmbH
 大連精工技研有限公司
 不二電子工業株式会社
 DATA-PIXEL SAS
関連会社
 浙江精工光电科技有限公司
 杭州技研光电科技有限公司

役員

代表取締役社長	上野 昌利
専務取締役	木村 保
常務取締役	來 関明
常務取締役	上野 淳
取締役(社外取締役)	大久保 勝彦
取締役(社外取締役)	谷田貝 豊彦
取締役(監査等委員)	森 保彦
取締役(監査等委員、社外取締役)	三好 徹
取締役(監査等委員、社外取締役)	相場 俊夫

株式の状況

発行可能株式総数	37,000,000株
発行済株式の総数	9,333,654株
株主数	2,819名

所有者別株式分布状況

